「地質の日」の俳句を作ろう

田口　雄作[1)]

5月10日は「地質の日」です.「ええっ？　そんな日があるの？」 ひょっとすると,地質関係者でも「そんな日,知らねぇよ」なんて言う人がいるかも知れません．一般にはまったく知られていない記念日です.

それもそのはず,わずか4年前の2007年3月13日に,地質関係の学会や組織が発起人として定められた，いわば出来立てほやほやの記念日なのです．地質関係者は，今後この日が一般にも認知されるように，運動を展開して行くつもりのようです.

では，なぜ5月10日が「地質の日」なのでしょうか？

1876（明治9）年ライマンによって日本で初めて広域的な地質図（200万分の1『日本蝦夷地質要略之図』）が作成された日であり，1878（明治11）年のこの日に，地質の調査を扱う組織（内務省地理局地質課）が定められた日でもあるのです（中尾ほか，2009).

産業技術総合研究所地質調査総合センターで，20有余年禄を食(は)んでいて，俳句を囓(かじ)っている私に，何かこの事業に協賛できる手だてはないものかをずっと考えていました．その結果,「地質の日」を季語とした俳句を作ってみてはどうかと思いついたのです.

＊

俳句は五七五の言葉で成り立つ文芸です．ですから，五文字（上五）＋七文字（中七）＋五文字（下五）の句を作ればよいだけの話ですが，有季定型の俳句には季語が必要です．季語は歳時記に載っている，その季節を表現するに相応しい珠玉の言葉です．その季語として「地質の日」を使おうというのです．では，どのように俳句を作ればよいのでしょうか？

2011年5月19日,「地質の日」を季語とするわが国初めて？の句会が,私の所属する俳句会で開催されました．その時に提出された句（歴史的仮名遣い）を例に，以下に説明したいと思います.

１．上五に季語を入れる場合

季語を上五に入れれば，読み手に先ず初めに飛び込んでくる言葉ですから，非常にインパクトがあります.

○地質の日想ひを馳せる億万年（秋山つよし）

子どもの頃，化石などを見て，どのくらい古い時代のものなのか想像を巡らせた記憶が甦ります.

○地質の日白磁に琥珀浮かせみる（樽本いさお）

化石の宝石と言えば，松などの木の樹脂が地中に埋もれて長い年月をかけて固まった琥珀が有名です．この句は,岩手県久慈が琥珀の産地で，作者はその久慈が，東日本大震災の大津波の被害を受けたことを踏まえて作った句と言うことでした．琥珀は確かに水に浮きます.

○地質の日触れて恐竜糞化石（田口雄作）

産業技術総合研究所地質標本館に行くと，恐竜の糞の化石が展示されています．糞の現物をしげしげ手にとって眺める人はいないと思いますが，さすがに化石で，しかも恐竜のものとなれば，ためらいながらも触ってみようと思ったりしますよね.

これらの句のように，季語を上五に持ってくることで,読者にその季語のイメージを連想させることができます.

２．下五に季語を入れる場合

最後に季語が出てくるので，その季語を詠嘆する場合に効果を発揮します.

○児の抽出(ひきだ)しより石のごろごろ地質の日（榎田きよ子）

大いに「字余り」ですが,子どもの抽出(ひきだし)を開けてみると,訳も分からない石ころが，宝物としてごろごろ出てきた記憶はありますね.

○大地震の地殻変動地質の日（清水静子）

句としては「即(つ)きすぎ」の感はありますが，東日本大震災で地震や津波の大被害がありましたから，一般的には地質と言えば地殻変動のイメージはあるでしょうね.

○何語る化石の魚や地質の日（鈴木正昭）

普通の人にとって，地質と結びつくのは，やはり化石だと思いますね．化石で一般的なのは，植物や魚介類のもの

1) 産総研　地圏資源環境研究部門

キーワード：地質の日，俳句，季語

だと思います．魚の化石を見て，その頃の世界はどんなものであったのだろうと子どもの夢は膨らみます．

○異常巻きアンモナイトや地質の日（松浦敬親）

○フズリナの渦に巻かるる地質の日（田口雄作）

化石でもアンモナイトは人気です．まして異常巻きとなるとなおさらです．フズリナは原生動物有孔虫のうちの紡錘虫類で，石灰岩によく見られる小さな化石です．

○蜘蛛封じ琥珀澄みたる地質の日（鈴木正昭）

作者は，ブラジルで手に入れた琥珀に，蜘蛛が取り込まれていた状況を句にされたと言います．

○カンブリアン日本に探さう地質の日（玉生志郎）

作者によれば，現在わが国の地表で，カンブリア紀の地層は見つかっていないそうです．みんなで探そうねと言う啓蒙的な句です．

○絶壁にタケコプター欲（ほ）る地質の日（玉生志郎）

地質屋さんは，地質露頭を探し歩いて地質図を作ります．時には断崖絶壁によい露頭が見つかり，是非現場に行って調査してみたいのですが，危険で立ち入れない．そんな時，「ドラえもんのタケコプターがあればなあ」と思う地質学者ならではの願望句です．

○穴掘りて野菜屑埋め地質の日（榎田きよ子）

この句は先生からもっとも評価されました．先生曰く「いずれこれが化石となる未来が詠み込めている．俳諧味があり，一般庶民から見た地質の日のイメージである」と．しかし，これにはさすがに地質屋の玉生さんから，考古学との混同は困るとのクレームがつき，私からは地質の日を馬鹿にしているのではないのか？（爆笑）との感想がありました．確かに庶民からすれば，野菜屑が分解して有機肥料となる土壌を，地質と思うのは致し方がないと思いましたね．地質を知っている人からは，絶対に出てこない面白い発想であることに違いありません．

以上のように季語を下五に持ってくるのは，案外作りやすいのかも知れませんね．

○余震して五月十日は地質の日（松浦敬親）

これは，先生の作品です．5 月 10 日は「地質の日」と歳時記に認定されていない以上，5 月 10 日の日付は必要と言い，ご本人の自信作と仰るのですが，「地質の日」が季語として認められれば，この句の中七は不要となりましょう．

３．中七に季語を入れる場合

「地質の日」は五文字ですから，中七に入れる場合は，二文字足さなければなりません．

○図鑑繰る地質の日には恐竜の（田口雄作）

句会には「地質の日」を中七に使った句は出ませんでしたので，急遽いい加減なものを作って例句としました．

４．季語が分断される場合

「地質の日」を「地質の」と「日」に分けて使おうというもので，なかなかテクニックが必要です．

○石割ればがちと地質の日なりけり（田口雄作）

これも例句がないので，いい加減に作ったものですが，このように季語を分断する作り方もあります．

＊

どうですか，皆さん？一度「地質の日」を季語とした俳句を作ってみませんか？ちょっと難しいかもしれませんが，挑戦してみる価値はありそうな気がします．近い将来，歳時記に「地質の日」が何の障害もなく，すんなりと記載されることを夢に見ています．

文　献

中尾征三ほか(2009)「地質の日」元年：ことはじめ．
地質ニュース，no.653，8-11．

TAGUCHI Yusaku (2012): Let's make Haiku of "Geology Day".

(受付：2011年11月30日)